

刻む会 たより

No.28

2004. 7. 20

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口 武信

事務局

宇部市常盤町一一一九（宇部緑橋教会内）

TEL 〇八三六（二一）八〇〇三

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会の活動を振り返って

山内 弘恵

「刻む会」が九一年に発足して、既に三年の歳月が経過しました。この一三年の間、毎年、韓国から犠牲者の遺族をお招きして追悼式を開催することができました。開催するにあたっては、渡航費用など皆様のご厚意がなければ実現できないことでした。そして、二〇〇四年の今年も例年同様韓国から一二名の遺族を招き無事追悼式を開催しました。（詳細については2、4ページ参照）

一方で、私たちの目的の大きな柱である追悼碑建立に向けても取り組んで来ました。具体的には九七年頃からピー

ヤの見える場所に建立したいという遺族の希望もあつて、旧長生炭鉱跡地付近に建立できそうな場所がないか検討することから開始しました。そして、

遅々とした歩みではありましたが、交渉を重ね、長年の努力が実を結ぼうとしていました。しかし、ここまで来ていながら、諸処の事情により、その土地の取得を断念せざるを得ない事態を迎えてしまいました。

一方で、数年前の台風の影響で、旧長生炭鉱跡地付近の堤防が決壊したため、宇部市が湾岸道路を本格的着工した際、堤防を高く設置し、旧長生炭鉱跡地付近からはピーヤが見えないという事態となっていました。

この二つの事情から、現段階では、碑

を建立するための土台となる土地を再

検討することとなりました。土地の取得ができないために、碑が建立できないということがぐくやしくてなりません。遺族達が既にご高齢であることも考えれば、一日も早い追悼碑の建立が望まれます。長生炭鉱に心を寄せる皆様にお願います。ピーヤの見える碑の建立できそうな土地に關しての情報を集めています。小さな情報でも構いません、是非事務局までお寄せ下さい。よろしく願いたします。



2004年追悼式

●二月一日(日)
観光・遺族帰国



●一月三〇日(金)
遺族来日 県庁・宇部市訪問
●一月三一日(土)
追悼式・交流会

2004年 長生炭鉱犠牲者追悼式参列者名簿

	参列者氏名	犠牲者氏名	続柄
会 長	キム ヒョン ス 金 亨 洙	金 四 郎	甥
副会長	ヤン ヒョン 楊 玄	楊 王 守	甥
	チョン ソク ホ 全 錫 虎	全 成 道	息子
	パク ヒョン モ 朴 亨 模	朴 ナンユン	甥
	キム ヘ ド 金 海 道	金 永 根 金 学 洙	息子 甥
	チェ グム ソク 崔 今 碩	崔 泰 龍	娘
	チェ ジョン ス 崔 正 秀	崔 奏 龍	息子
	チェ テ ウン 崔 泰 雄	崔 陽 海	息子
	チョ スン ドク 曹 順 徳	曹 在 福	娘
	チョ カプ スン 曹 甲 順	曹 在 福	娘
	イム スン エ 林 順 愛	曹 在 福	娘
事務局長	ソン ボン ス 孫 鳳 秀	孫 長 平	孫

遺族会会長挨拶

山口県下の宇部市民のみなさん、
一年間ご無事でいらっしやいましたか？

歴史を正しく刻む会の会長及び
会員のみなさんとこの会にご尽力
下さる方々に感謝いたします。
また、私たちを招いて毎年追悼式
を行うようにご尽力くださる皆
様に深く感謝いたします。

尊い命が奪われて既に六三年に
なりました。亡くなった故人の亡
骸に手をふれることも、発掘もで
きないと言うことに対する遺族
の痛む心をご理解いただけると
信じます。

日本政府は一日も私たちの念願
が成就して、心安らかに追悼式が
行われることを望みます。

この追悼式を盛大に行うことが
できたことは皆様方のご尽力に
よるものと本当に感謝いたしま

す。最後に皆様のご健勝をお祈り
して遺族会の挨拶とします。

二〇〇四年一月三十一日

長生炭鉱犠牲者大韓民国遺族会

会長 金享洙



遺族会会長 金享洙

弔 辞

孫鳳秀

2004年1月新年始めの日、
日本から韓国に伝わった最初の
ニュースは、軍国の追憶、日本の
過去の反省は話だけでしょう
か？小泉首相の新年最初の靖国
参拝という大過程、小泉純一郎と
いう日本の総理は、新年元旦の日
に、日本の伝統的な衣装を着、太
平洋戦争戦犯の位牌がある、靖国
神社に奇襲参拝したという記事
でした。私たちはまた宇部市の長
生炭鉱水没地にいかねばなりま
せん。日本の総理の間違った歴史
観をどう受け取ったらいいいので
しょうか？日本の歴史・伝統・習
慣を尊重しなければと強力に語
る総理に対し、世界の言論は指し
ています。日本の総理小泉さん、
世界の声が聞こえていますか？

軍国主義の亡霊の家臣であり、あ
んまりです。

地下にいるおじいさん、今日は
参列できなかった遺族の孫嫁が
作ったおじいさんに捧げる弔辞
を代読します。

新年の朝、太陽の光が間もなく昇
るようになると、暗いその日の痛
みがもつと胸を締めつけます。
その痛みなどが、毎年その苦痛を
自分たちの不運と返すことは私
たち家族にはあまりにも残酷な
限りです。

この場所に集まる意義深い方々
たちの、私たちの子孫のしびれる
胸を撫で下ろして下さるその心
が、長々続くことを願います。
何ともいいようのないこの苦痛
は、歴史の中で埋もれるていくよ
うであるけれど、おじいさん、お

どうさん、うらめしい生き様を子
孫に返さないために、毎年この地
に来られるようにしてくださいさ
ることに感謝いたします。

たとえ肉体は冷たい海の深いと
ころに奪われていても、おじいさ
んの靈魂は我ら子孫たちといつ
も一緒にいることを、体に、心に
深く刻んでいきます。

おじいさん、おとうさん、あなた
方の犠牲により、今日私たちは胸
を大きく開き、力強く、強く進む
ことの努力をしています。

今からは暗さの中から一日も早
く出て、暖かい子孫達のさしのべ
る手と愛を心いっぱい受けて下
さい。

遠いところにおいても、近いところ
にいても、一つの心、一つの志。
参列できなかったみなさんにも、
どうぞおじいさん、おとうさん、
お許し下さい。

感謝いたします。カムサハムニダ

2004年1月31日

日本長生炭鉱犠牲者大韓民国遺
族会代表・渡航者一同

遺族会事務局長 孫鳳秀

